

日本サービス・ラーニング・ネットワーク 2025 年度第 3 回研究会のお知らせ

日本サービス・ラーニング・ネットワークの 2025 年度研究会では、「批判的サービス・ラーニング」をテーマとして、「サービス・ラーニング」と意識されていない類似の学校（大学等も含む）地域協働実践をも広く取り上げ、それらがもつ社会変革性や、教育実践と地域実践とのジレンマについて、論究することを目指しています。参加者のみなさんが、「わたしの「批判的サービス・ラーニング」的視点」を磨く時間帯を共有するひと時となれば、と考えています。

今年度第 3 回研究会は、摂南大学の加野佑弥さんによる「シティズンシップ教育としての批判的サービス・ラーニング：社会の構造的問題に目を向けさせるリフレクション」と題した話題提供を契機に、参加者どうしの意見交換を重視した時間としたいと考えています。

日時：2026 年 3 月 23 日 月曜日 19 時から 21 時まで

会場：オンライン開催

（お申込みいただいた方に、直前に、Zoom の URL をお知らせいたします）

費用：無料

申込：以下の Google Form に必要事項をご入力ください。

<https://forms.gle/nLNHDX3an66Jk29aA>

話題提供

講師：加野佑弥さん（摂南大学全学教育機構助教）

論題：「シティズンシップ教育としての批判的サービス・ラーニング
：社会の構造的問題に目を向けさせるリフレクション」

言語：日本語

概要：

本報告では、シティズンシップ教育としての批判的サービス・ラーニングのあり方を議論する。とりわけ、社会の構造的問題に目を向けさせるリフレクションに焦点を当て、その可能性と課題について検討する。

報告者は大学教育研究を専門としており、これまで日本における大学での能動的シティズ

ンシップ教育について研究してきた。能動的シティズンシップ教育とは、社会への積極的な参画を促す教育であり、主権者教育や「公共」科目などのベースとなっているものである。報告者は博士論文執筆時から継続して関わっている（2025年度から教員として関わる）、中学生の学習・生活支援をフィールドとした批判的サービス・ラーニングによるシティズンシップ教育を試みてきた。

本報告ではこの実践を取り上げ、社会の構造的問題に目を向けさせるリフレクションの可能性と課題（困難さ）を議論する。

本報告では、1)なぜシティズンシップ教育が求められるのか、2)シティズンシップ教育の教育方法としての批判的サービス・ラーニング、3)批判的サービス・ラーニングの実践研究から見えてきた社会の構造的問題に目を向けるリフレクションの可能性と課題、4)現在取り組んでいる実践事例などを扱う予定である。

特記：

日本サービス・ラーニング・ネットワークの2025年度研究会では、「批判的サービス・ラーニング」をテーマとして、「サービス・ラーニング」と意識されていない類似の学校（大学等も含む）地域協働実践をも広く取り上げ、それらがもつ社会変革性や、教育実践と地域実践とのジレンマについて、論究することを目指しています。参加者のみなさんが、「わたしの「批判的サービス・ラーニング」的視点」を磨く時間帯を共有するひと時となれば、と考えています。